

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

本プログラムの4年目となる平成29年度は、本事業の推進主体である高大接続・全学教育推進センターと連携するYNU教学マネジメントチーム（AP会議）の下、学修成果（学士力・就業力）の可視化を通じて教育内容・方法等の改善を図るため、これら事業計画の中核となる「YNU学生ポートフォリオ」に組み込む「学生プロフィール」のシステム構築にある。

学内の実施体制は、本事業の採択以降、教育担当副学長、各学部教務厚生委員長、センター長、学務部長等で組織する「YNU教学マネジメントチーム」を継続設置し、チーム支援室に特任職員1人、事務補佐員1人を配置した。本チーム支援室では、学生プロフィールによる調査データをはじめ、学生の学修・生活行動の調査分析を加速させ、すべての学部（教務厚生委員会）に教学・学生IR情報を迅速にデータ提供してきた。

特に平成29年度は、本学の教育会議に「学生行動調査分析WG」を設置し、これらの教学・学生IR情報の分析結果に基づき、学部の事情に適合した教育改善の検討とともに、成績不振（履修不良）学生に対する初年次指導を試行し、平成30年度以降の教育改善の方向性を明確に定めた。

中心となる取組は、教学・学生IR情報の一元的なデータ収集・管理する「学生プロフィール」をシステム構築し、これらIRデータを活用して学修成果（学士力・就業力）を可視化する「YNU学生ポートフォリオ」のシステム改修にある。学生プロフィールとは、①学士力自己チェックシート、②留学・インターンシップ等の授業外活動記録シート、③就業力（社会人基礎力）自己チェックシート、④学修生活行動調査の4つの視点から多面的に学修成果を認識（⑤振り返りシート）させ、本事業の達成目標とする「主体的な学びのデザイン」を学生自ら把握する仕組みを整備した。

当初計画どおり就業力の可視化が平成29年度秋学期から本格稼働し、学士力の可視化が平成30年度春学期から稼働できるよう学生プロフィールのシステム組み込み作業を着実に進めた。

取組の成果は、各学期当初に授業科目履修登録時の学生プロフィール入力システムを全学導入し、大幅な利用率向上の達成（悉皆調査の実質化）とともに、教学・学生IRの実質化の観点から広範かつ継続的なIR情報の収集・管理する仕組みを構築し、高大接続・入学者選抜から卒業後まで一貫して学生にフォーカスする「教学・学生IR」構想を実現する仕組みが完成した。

特に各学期の当初には、学生プロフィールに入力して授業科目履修登録画面に遷移する手順となり、学生の確実なデータ入力と同時に、学期ごとの定期的な学修成果の振り返りを可能とした。各学部の教務厚生委員会では、所属学生の学修生活意識行動等データの迅速な入手が可能となり、教育改善に資する教学・学生IRデータを日常的に修得できる体制を整備した。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組は、本事業の最終段階である「YNU学生ポートフォリオ」の再整備計画に既に着手し、平成29年度末までに主要なシステム開発が完了した。平成29年度から教員人件費は未計上とし、教学・学生IR情報による教育改善に実質化に結びつける段階にある。

学内外への波及効果は、北九州市立大学（テーマ別幹事校）を中心にテーマII採択大学における事業成果の発信・普及に係る共同活動のほか、テーマV採択大学と共同シンポジウムを開催（平成30年2月）し、本学から事例報告とパネルディスカッション等へ積極的に参画した。

これらのほか、横浜4大学FD協定校主催の第3回ヨコハマFDフォーラムを本学キャンパスで開催（平成29年12月）し、学生調査の現状と課題について地域での共同FD活動にも努めた。